



2024年3月期 決算説明


証券コード：6908

2024年5月8日

IRISO 電子工業株式会社
IRISO ELECTRONICS CO.,LTD.

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.



-  **I. 2024年3月期 連結決算概要**
- II. 2025年3月期 連結決算見通し**
- III. トピックス**

1. 2023年度 業績のポイント

■ 下期からの車載市場伸長の減速、コンシューマー・インダストリアル市場の調整継続により、累計売上高**552**億円、前年比**+4.5%**に留まる
※4Qの売上高には新ERPシステムへの切替え時における当社のシステム停止に伴う一部顧客の安全在庫確保による売上増含む

■ 為替影響、原材料価格の高騰は、収益構造改善により吸収するが、新ERP・秋田工場建設等による先行投資による固定費増に対し、計画した売上を確保できず、営業利益は**59.4**億円、前期比**-14.5%**

単位：百万円

	2022年度	2023年度	前年比	計画比
売上高	52,903	55,271	+2,367 +4.5%	+771 +1.4%
営業利益	6,940	5,936	△1,004 △14.5%	△613 △9.4%
営業利益率	13.1%	10.7%	△2.4pts	△1.3pts

2. 2023年度 連結決算の概要

単位：百万円

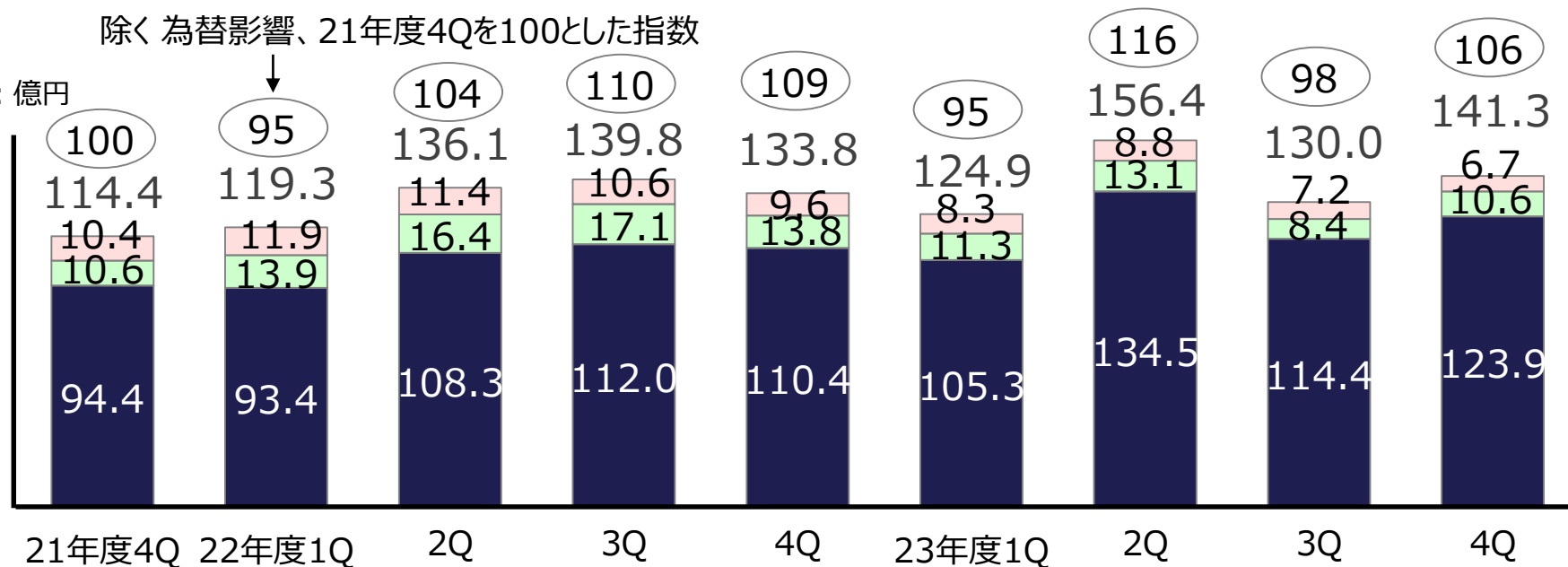
	22年度	23年度	増減額	増減率	修正計画比
売上高	52,903	55,271	+2,367	+4.5%	+771
車載	42,409	47,823	+5,413	+12.8%	+523
コンシューマー	6,141	4,338	△1,802	△29.4%	+338
インダストリアル	4,352	3,109	△1,243	△28.6%	△90
売上原価	35,578	38,133	+2,555	+7.2%	
売上原価率	67.3%	69.0%		+1.7pts	
販売管理費	10,384	11,200	+816	+7.9%	
販売管理費率	19.6%	20.3%		+0.6pts	
営業利益	6,940	5,936	△1,004	△14.5%	△613
営業利益率	13.1%	10.7%		△2.4pts	
税引前利益	7,034	6,869	△164	△2.3%	+69
純利益	5,541	5,593	+51	+0.9%	+293
EPS	235.58円	237.75円			
設備投資	8,427	9,049	+622	+7.4%	△750
減価償却	6,168	6,326	+157	+2.6%	△173
為替レート	ドル：134.95円	144.40円	+9.45円	+7.0%	△2.28円
ユーロ	141.24円	156.80円	+15.56円	+11.0%	+1.66円
期中平均	元：19.68円	20.14円	+0.46円	+2.3%	+0.17円

3. 四半期別売上高・営業利益推移

除く 為替影響、21年度4Qを100とした指数

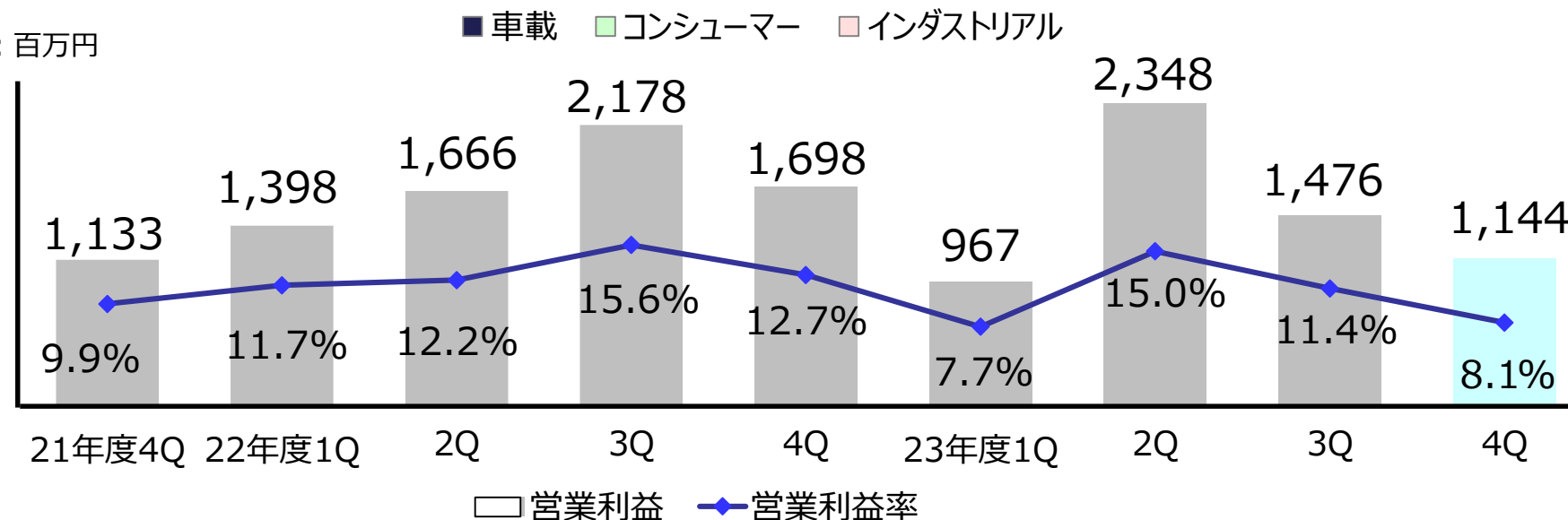
単位：億円

売上高



単位：百万円

営業利益



4. 地域別・製品別売上高

■ 地域別

単位：百万円

	22年度		23年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日本	10,035	19.0%	9,743	17.6%	△291
中華・韓国圏	21,294	40.3%	21,761	39.4%	+466
アメリカ	6,304	11.9%	6,632	12.0%	+328
欧州	8,377	15.8%	9,652	17.5%	+1,274
ASEAN	6,891	13.0%	7,480	13.5%	+588
合計	52,903	100.0%	55,271	100.0%	+2,367
海外比率		81.0%		82.4%	

■ 製品別

単位：百万円

	22年度		23年度		前年比
	売上高	構成比	売上高	構成比	
BtoB	21,598	40.8%	24,165	43.7%	+2,567
FPC	11,710	22.1%	11,078	20.0%	△631
車載IF	15,415	29.1%	16,076	29.1%	+661
ピンヘッダー	2,222	4.2%	2,675	4.8%	+452
その他	1,957	3.7%	1,252	2.3%	△681
合計	52,903	100.0%	55,271	100.0%	+2,367

日本

- ・コンシューマー・インダストリアル市場の調整局面継続

中華・韓国圏

- ・コンシューマー市場低迷を、インフォテインメント分野を中心に車載市場がカバー。中国パワートレイン分野は下期調整

欧州・ASEAN

- ・車載市場回復により増加

BtoB

- ・車載市場の回復で増加
- ・“Z-Move”、高速伝送対応新製品の貢献

FPC

- ・コンシューマー市場向低迷により減少

車載IF

- ・パワートレイン分野向けで増加も下期は成長率鈍化

5. 対前年同期比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	要因
22年度 実績	52,903	6,940	13.1%	
22年4～5月上海 ロックダウン影響戻し	+540	+180		売上減並びにロックダウン対応追加経費減
		△365		ロックダウンによる固定費営業外処理の戻し
為替影響	+2,684	△200		USD: 134.95円→144.4円、107.0% EUR: 141.24円→156.8円、111.0% CNY: 19.68円→20.14円、102.3% →営業利益率△1.0%押し下げ
物量減	△857	△428		
材料費増		△700		金、樹脂材等高騰
固定費増		△1,050		人件費、経費増
一時費用		△521		・新ERP立上げによる経費増、資産減却、 債権放棄他→営業利益率△0.9%押し下げ
原価低減他		+2,081		収益構造改善による原価低減他
変動要因 計	+2,367	△1,004		
23年度 実績	55,271	5,936	10.7%	

6. 連結貸借対照表の状況

単位：百万円

	22年度	23年度	前年末比
流動資産	46,194	56,093	+9,899
現金及び預金	18,640	26,692	+8,051
売掛債権	13,956	15,010	+1,054
棚卸資産	12,067	12,616	+549
固定資産	36,297	40,762	+4,465
資産合計	82,491	96,856	+14,364
負債合計	14,472	19,839	+5,366
買掛債務	4,364	5,466	+1,102
借入金	2,493	6,825	+4,332
純資産合計	68,019	77,016	+8,997
株主資本計	58,787	62,498	+3,711
自己資本比率	81.7%	78.7%	△3.0pts

7. 連結キャッシュフローの状況

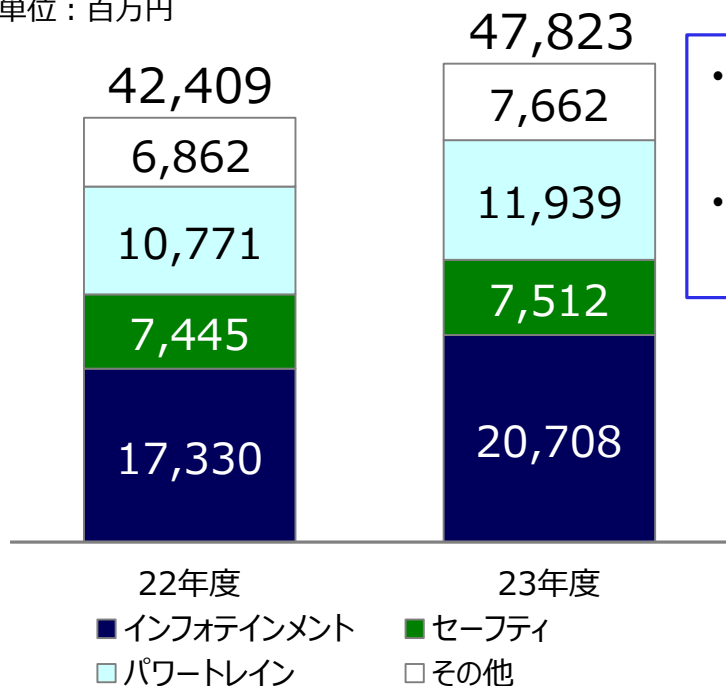
単位：百万円

	22年度	23年度	増減
営業キャッシュフローマージン率	22.0%	23.4%	+1.5pts
営業キャッシュフロー	11,613	12,934	+1,321
税引前利益	7,034	6,869	△164
減価償却費	6,168	6,326	+157
運転資金増減(△は増加)	△990	1,170	+2,160
投資キャッシュフロー	△8,179	△9,089	△910
有形固定資産	△7,105	△7,827	△722
フリーキャッシュフロー	3,433	3,845	+411
財務キャッシュフロー	516	2,313	+1,797
配当金	△1,420	△1,893	△472
現金及び現金同等物期末残	18,640	26,692	+8,051

8. 市場別売上 オートモーティブ(車載)

■ 前年比+5,413百万円 (+12.8%)

単位：百万円



- ・自動車生産回復により、通期では堅調に推移するが、3Qより中国を中心に減速感あり
- ・インフォテインメントは自動車全体の生産増と、高速伝送対応可動BtoBコネクタの搭載の広がりにより好調継続

インフォテインメント

- ・前年比:累計+20%、4Q+28%
- ・海外顧客向け増加
- ・従来のナビ向けに加え、液晶パネルやIVI(In-Vehicle Infotainment)向けが貢献

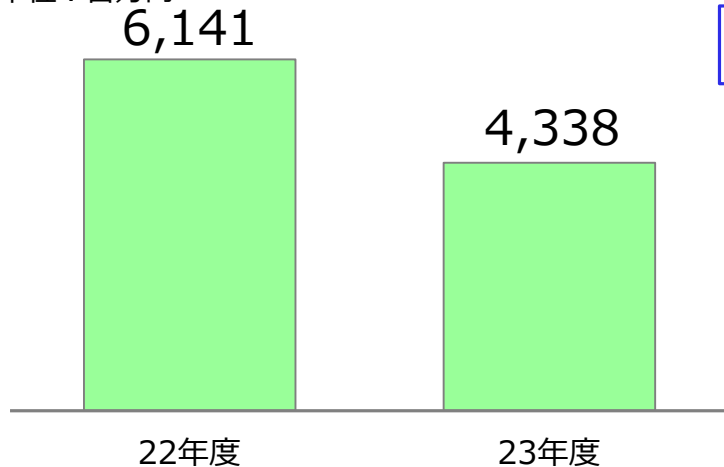
パワートレイン

- ・前年比:累計+11%、4Q-0.4%
- ・3Qからの中国顧客での調整が4Qも継続
- ・24年度2Q以降から回復の見込み

	22年度				23年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
インフォテインメント	3,971	4,565	4,401	4,392	4,668	5,606	4,797	5,635
セーフティ	1,803	1,946	1,843	1,852	1,825	2,069	1,753	1,862
パワートレイン	2,092	2,496	3,186	2,996	2,190	3,674	3,091	2,983
その他	1,470	1,820	1,773	1,799	1,849	2,101	1,800	1,911
合計	9,337	10,828	11,204	11,039	10,534	13,452	11,442	12,393

■ コンシューマー市場：前年比△1,802百万円 (△29.4%)

単位：百万円

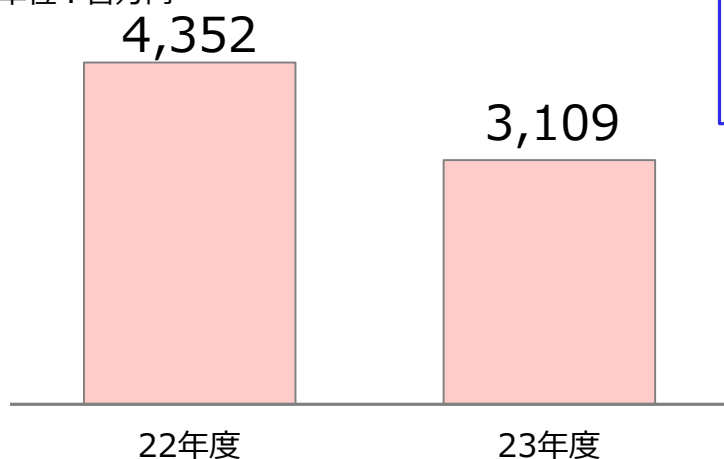


・ゲーム機、OA機器向けの需要減により減収

22年度				23年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
1,398	1,647	1,710	1,385	1,130	1,307	835	1,065

■ インダストリアル市場：前年比△1,243百万円 (△28.6%)

単位：百万円



・中国の設備投資調整、5G基地局向けの減少継続により減少

22年度				23年度			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
1,193	1,138	1,060	960	831	884	722	671



I. 2024年3月期 連結決算概要

 **II. 2025年3月期 連結決算見通し**

III. トピックス

1. 2024年度 業績予想

単位：百万円

	23年度	24年度	前年比
売上高	55,271	58,000	+2,728 +4.9%
売上原価率	69.0%	67.0%	△2.0pts
営業利益	5,936	7,000	+1,063 +17.9%
営業利益率	10.7%	12.1%	+1.3pts
税引前利益	6,869	6,500	△369 △5.4%
当期純利益	5,593	5,200	△393 △7.0%
EPS	237.75円	226.82円	
為替レート 期中平均	ドル：144.40円 ユーロ：156.80円 元：20.14円	145.00円 160.00円 20.00円	+0.60円 +3.20円 △0.14円
設備投資	8,804	8,000	△804
減価償却	6,326	6,900	+573
配当予想	90円	100円	+10円

2. 対前年比 売上・営業利益変動

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	要因
23年度 実績	55,271	5,936	10.7%	
為替影響	+500	0		
物量増減	+2,228	+1,050		
材料費増減		△400		金価格影響
固定費増減		△780		23年一時費用減+521M¥、新ERP償却費増、秋田工場稼働準備投資他
原価低減他		+1,193		原価低減、売価ダウン他
変動要因 計	+2,728	+1,063		
24年度 計画	58,000	7,000	12.1%	

- コンシューマー・インダストリアル市場の調整局面は継続するが、車載(モビリティ)市場は高速伝送等エンタテインメント分野を中心に成長し、売上前年比4.9%増
- 新ERP・秋田工場先行投資等固定費増は24・25年度継続するが、物量増による回収増の範囲内で経営を推進

3. 2024年度 市場別売上高計画

単位：百万円

	22年度		23年度		24年度		
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	前年比
モビリティ※ 計	42,409	80.2%	47,820	86.5%	51,000	87.9%	+6.6%
インフォテインメント	17,330	32.8%	20,708	37.4%	22,600	39.0%	+9.1%
センサー※	7,445	14.1%	7,512	13.6%	7,500	12.9%	△0.2%
パワートレイン	10,771	20.4%	11,939	21.6%	12,900	22.2%	+8.0%
その他	6,862	13.0%	7,662	13.9%	8,000	13.8%	+4.4%
コンシューマー	6,141	11.6%	4,338	7.8%	4,000	6.9%	△7.8%
インダストリアル	4,352	8.2%	3,109	5.6%	3,000	5.2%	△3.5%
合計	52,903	100.0%	55,271	100.0%	58,000	100.0%	+4.9%

※従来の自動車、二輪だけでなく、農機、建機、eVTOL(電動垂直離着陸機)なども含めたモビリティ市場への拡大を目指し、市場・分野の呼称のうち「車載」を「モビリティ」へ、「セーフティ」を「センサー」に、改称します

■ 新中期経営計画の1年目として8項目を推進

項目

[経営戦略面]

- ① モビリティ市場パワートレイン分野での欧米顧客規格対応製品の拡販活動強化
- ② 高速伝送対応コネクタのラインアップ強化、統合ECU向けコネクタの開発
- ③ インダストリアル市場での販売チャネル・販売手法見直し、グローバルでの新規顧客開拓
- ④ 車載で培った耐振・耐熱、接続信頼性、高速伝送技術を武器に、自動車以外のモビリティ分野顧客への当社製品提案と顧客ニーズ収集

[事業基盤面]

- ⑤ 新ERPシステムの円滑な立上げと業務標準化の定着、改善効果の実現
- ⑥ 主力コネクタ製品の価格競争力強化
- ⑦ 設備標準化、金型内製化の拡大による設備投資効率向上、固定費圧縮
- ⑧ 2025年秋田工場の稼働を踏まえ、各工場の役割分担を見直し、拠点再整備・生産性向上施策の策定



I. 2024年3月期 連結決算概要

II. 2025年3月期 連結決算見通し

 **III. トピックス**

■ 目的

ROE、ROICなどの資本効率の向上と、株主還元の拡充のため

■ 取得株式総数

120万株（上限）

発行済株式総数（自己株式除く）に対する割合5.07%

■ 取得総額

36億円（上限）

■ 取得期間

2024年5月15日～2024年11月29日まで

会社名	イリソ電子工業株式会社
事業内容	各種コネクタの製造・販売
設立年月	1966年12月
社員数	3,037名(2024年3月31日現在)
資本金	5,640百万円(2024年3月31日現在)
本社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営業拠点	
国内	本社、福島県、茨城県、愛知県、大阪府
海外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国(上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶)、台湾、インド
研究開発	本社(イリソテクノロジーパーク)、 川崎(生産技術センター)、岩手県(花巻工場)、上海R&Dセンター
工場	茨城県、中国(上海、南通)、フィリピン(マニラ)、 ベトナム(ハイズオン)

コネクタの種類

基板対基板コネクタ (BtoBコネクタ)

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ(ボードtoボードコネクタ)とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B (ビー・ツー・ビー)は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

FPC/FFCコネクタ

FPC基板(Flexible printed circuits)やFFCケーブル(Flexible flat cable)の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF(Zero insertion Force)タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

IFコネクタ

IFとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O(インプット/アウトプット)コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面(裏・表面)に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン(電導体)”をハウジング(樹脂材でできた絶縁体)で支えたプラグ(オス側)コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続(基板間接続)に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

私たちは、社会やお客様の期待を超える「つなげる」を実現します
Together, surpassing expectations by empowering connections
to enrich society and delight people.